

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い志を持ち、夢の実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、考え、行動し、社会に貢献する人材を育成する学校をめざします。

- 1 高い志を持ち、自ら行動し、挑戦を続ける力を育みます。
- 2 未来を切り拓き、将来の夢の実現に向けて必要となる学力と考える力を育みます。
- 3 他者を思いやる心と、地域での奉仕活動など社会に貢献する力を育みます。

2 中期的目標

1 将来の夢の実現をめざした確かな学力の育成とキャリア教育の実践

(1) 「魅力的な授業・わかる授業」をめざした授業改善に取り組む。

授業アンケート、授業見学、研修、ICT活用等により、授業改善や工夫を行い、授業力の向上をめざす。

(2) 自学自習力を育む。

家庭学習（授業外学習）に取り組む力の育成とともに、読書活動の推進並びに資格取得に向けた取組みを行う。

(3) 3年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育を実践する。

1 年次から進路情報の提供、進路相談、進路説明会等を実施し、キャリア教育の強化を図る。

※授業満足度 平成 27 年度 80%→平成 30 年度 85%

※家庭学習（授業外学習）時間/日 平成 27 年度 40 分→平成 30 年度 60 分

※難関・中堅私立大学合格者数 平成 27 年度 32 人→平成 30 年度 50 人

※学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 平成 27 年度 78%→平成 30 年度 84%

2 規範意識を高め、社会性、公共性を兼ね備えた人材の育成

(1) 遅刻者数を減少させる取組みを全校的に実施する。

全校的で効果的な生徒指導・遅刻指導を行い、保護者の協力も得ながら、時間を守る意識を育む。

(2) 学校・地域における活動を通じて生徒の主体性を育む。

学校行事、部活動、奉仕活動等のさまざまな活動を通じて、生徒に考え、行動させながら、主体性の育みをめざす。

※遅刻者数 平成 27 年度 1653 人→平成 30 年度 1100 人

※部活動加入率 平成 27 年度 73%→平成 30 年度 80%

3 活力ある学校づくりと広報・情報発信の推進

(1) 活力ある学校づくりを推進する。

専門コース及び総合系の設置をきっかけに、専門コースチーム、教科、学年団が協力して、生徒の成長に繋がるような教育活動の実施に取り組む。

国際交流・学内留学の推進により、英語による生徒のコミュニケーション力を育む。

(2) 広報、情報発信を推進する。

学校説明会・外部説明会・中学校訪問による広報、Web ページ等による情報発信の推進を図る。

※Web ページ更新回数 平成 27 年度 39 回→平成 30 年度 80 回

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>・今年度、魅力的な授業・わかる授業をめざした授業改善を目標に取り組んだ。教職員「学習形態や学習指導方法の工夫・改善を行っている」に肯定的回答がこの3年間で64%→88%→91%と増加した。ICTを活用する授業への取組みは、43%→52%→71%と広がった。</p> <p>・「テストだけでなくいろいろな側面から学習の評価を行っている」教職員は93%であった。別のアンケートで生徒に同じ内容の質問をすると、肯定的回答が92%であり、生徒の日々の取組みをあわせて評価しようと工夫している</p> <p>・保護者「子どもは家庭でよく学習している」に肯定的回答が41%であり、よく学習している生徒もいるが、全体として家庭学習が不足している。学校では講習・補習を行うとともに、自習室の提供を行い放課後や週休日にそこで勉強する生徒もいるが、家庭学習（授業外学習）の不足への対策は一層取り組んでいかなければならない。</p> <p>【進路指導】</p> <p>・進路指導については、3年間を見通した系統的・継続的な指導を行っている。肯定的回答は生徒85%、保護者81%、教職員77%であった。一層工夫しながら生徒の夢の実現に貢献できる指導を行っていききたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・教職員「学校案内やリーフレット、ホームページなどの広報資料はよく整備されている」に肯定的回答は90%であった。4月からはホームページを一新するとともに、9か月間の更新回数は175回で前年度の4倍超に達している。</p> <p>・保護者「本校の教育は全般的に満足できる」に肯定的回答は79%であった。今後とも一層の充実に努めていきたい。</p>	<p>○第1回（6/20）学校経営計画及び本校の概要について</p> <p>・生徒の授業外の学習活動に対する支援のための物的・人的環境整備はどのような状況か。→自習室を平日19時まで使用できるように対応（通常の下校時間は17時）、可能な限り土曜日にも開けている。平日以外に長期休暇中や土曜日にも講習・補習を行っている。図書室の英語や読書・自習コーナーの整備に重点的に予算配当し、機材を新しく購入した。</p> <p>・ホームページに関して、どのような端末で見ているか調査してはどうか。それにより、ターゲットを絞り、効率の良い情報提供ができる。</p> <p>○第2回（11/10）本校の取組み状況について</p> <p>・遅刻指導の際の「振り返りシート」について、振り返ることは大切であり、生徒個人の都合でなく、遅刻することで周囲にチームとして影響を与えてしまうという側面について考えさせ、社会性を育てていくことが重要である。</p> <p>・遅刻の理由を詳細にカテゴライズして、傾向によりパターン化をはかり対処方法を検討することで、細やかな指導につなげることができる。</p> <p>第3回（1/23）学校経営計画の自己評価及び学校教育自己診断結果について</p> <p>・家庭学習時間が増えていないようであるため、個人単位で他の項目との関連性を調べて傾向を洗い出してはどうか。また、勉強が必要な理由を、生徒が納得できるように指導をしていくことも重要である。</p> <p>・アンケートは、質問文により結果が変わる。内容を細分化し、改善が必要かどうか考えている部分に絞った質問文にすることが大切である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 将来の夢の実現をめざした確かな学力の育成と キャリア教育の実践	(1) 「魅力的な授業・わかる授業」をめざした授業改善 ア 授業アンケートの活用、授業見学、研修の実施 イ ICTを活用する授業の取組み	ア・授業アンケートの活用とともに、「いつでも誰でも予告なく授業見学」することにより授業改善の促進に取り組む。 ・研修や他校の公開研究授業により授業力の向上をめざす。 ・到達目標を意識した授業を行う取組みを進める。 イ・ICTの環境整備を図り、ICTを効果的に活用する授業に取り組む教員を増やす。	ア・授業満足度 82% (H27; 80%) ・授業見学 2.5回/人 (H27; 1.4回) イ・ICTを活用する授業を実践した教員の割合 60% (H27; 52%)	ア・生徒授業アンケートの授業満足度は 85%であった。なお、9割の教員が学習形態や学習方法の工夫・改善に取り組んでいる。(◎) ・授業見学回数は1回/人であった。次年度は授業改善等の取組み担当を創設したい。(△) イ・ICTを活用する授業を実践した教員の割合は71%であった。次年度は、進学特別ルームに整備の生徒用タブレットの活用が広がるよう取り組みたい。(◎)
	(2) 自学自習力を育む ウ 家庭学習(授業外学習)に取り組む力の育成 エ 読書活動の推進 オ 資格取得の奨励	ウ・家庭学習(授業外学習)に取り組むように、学年・教科で情報共有しながら、宿題・課題を効果的に課す。 ・講習・補習を行い、学力の補強を図る。 エ・図書館利用率増をめざすアイデアに予算を配当し、利用率の増加を図る。 オ・英検、漢検等の資格取得をめざして講習や授業での取組みを行う。	ウ・家庭学習(授業外学習) 50分(H27; 40分) ・講習・補習における参加者数 700人(H27; 620人) エ・本校図書館利用率 18% (H27; 11%) オ・英検・漢検受験者数を前年度比 10%増(H27; 315人)	ウ・家庭学習は 37分。次年度はほとんど家庭学習をしない生徒減に取り組む。(△) ・講習・補習の参加者は 14%減の 536人。次年度は生徒に繰り返し勧めたい。(△) エ・利用率(昼休み・放課後)は 31%。英語や読書・自習コーナー等に予算配当。(◎) オ・3%増の 324人。漢検は安定的受験のため次年度は英検受験者数を増やしたい。(△)
	(3) 3年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育	カ・3年間を見通した進路情報の提供、進路説明会、進路相談、模擬試験等を実施し、キャリア教育を実践する。	カ・学校教育自己診断(生徒)における進路指導項目の肯定率 82%(H27; 78%)	カ・3年間の系統的・継続的な指導により、進路指導項目の肯定率は 85%であった。次年度も肯定率を維持したい。(◎)
2 規範意識を高め、社会性・公共性を兼ね備えた人材の育成	(1) 遅刻者数を減少させる取組み ア 遅刻指導の工夫と取組み イ 保護者と連携した交通安全指導の取組み	ア・前年度の遅刻防止の取組みの改訂を行いながら、全校的で効果的なものにして、更に遅刻者数の減少へと繋げていく。 イ・PTAの協力のもと、保護者と連携した合同交通安全指導及び意見交換会を開催して、得られた情報を生徒に伝達しながら、交通マナーの改善へと繋げていく。	ア・遅刻者数を前年度比 20%減(H27; 1653人) イ・合同交通安全指導を実施し、保護者との意見交換会を年3回実施(H27; 3回)	ア・生指遅刻者数は 10%増の 1811人。8月末までは 10%減であったが、9月以降急増し学年集会や遅刻防止キャンペーンなどを行った。次年度は1学期から規範意識の育成に努めたい。(△) イ・3回実施し、保護者から見た現状と課題が報告された。改善に活用していく。(○)
	(2) 学校・地域における活動を通じた主体性の育み ウ 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 エ 部活動の活性化 オ 地域での奉仕活動や交流活動の推進	ウ・リーダーが活躍する場を作り、考え、行動させながら、生徒が主体となるように任せてみることを通じて、主体性を育む。体育祭・文化祭等において十分対話し、規律を保ちながら、生徒が満足する行事をめざす。 エ・新入生への部活動加入を奨励するとともに、現部員が継続していくように、顧問を始め各教員がフォローしていく。 ・部員による挨拶運動や清掃活動等を奨励し、出番を作っていく。 ・中学生を招いた部活動交流や学校説明会の部活動体験により部員の活躍の場を作る。 オ・地域の清掃、SGS(スクールガードサポーター)等の奉仕活動並びに地域での交流活動への参加を図る。	ウ・行事の満足度について体育祭 90%以上維持(H27; 92%) 文化祭 85%(H27; 82%) エ・部活動加入率 76%(H27; 73%) オ・地域での奉仕活動や交流活動への参加者数 550人(H27; 480人)	ウ・満足度は、体育祭 94%(◎)、文化祭 79%(△)となった。詳細な生徒文化祭アンケートをとっているため次年度の改善に生かしたい。 エ・部活動加入率は 68%であった。次年度は入部の勧誘に一層取り組むとともに、現部員には丁寧にフォローする。(△) ・バスケットボール部で地域の中学校に呼び掛けて9校から 200人の中学生を集めた大会「阜カップ」を本校生が開催した。 オ・地域の清掃、SGSへの参加者数は延 860人。地域の清掃において、寝屋川市長室、地域の方々から感謝の言葉をいただいた。(◎) ・地域での畑農業体験活動を中心にした健康づくりの取組みに関して、日本学校保健会の全国健康づくり推進学校表彰で、高等学校部門の全国最優秀校に輝いた。
3 活力ある学校づくりと広報・情報発信の推進	(1) 活力ある学校づくり ア 専門コースと総合系の実施に向けた取組み イ 国際交流の推進	ア・専門コース及び総合系の対象学年を初めて迎える。専門コースチーム、教科、学年団が協力して実施に向けた取組みを行う。進学特別ルームを、生徒の成長に繋がるように活用する。 イ・9月に計画しているカナダの姉妹校からの訪問団との交流を本校生徒が主体的に行うよう取り組ませる。 ・海外から留学の大学生等を活用した企画または英語を活用する企画を進めていく。	ア・各教科でタブレットの活用研究に取り組み、進学特別ルームに生徒用タブレットを導入する。 イ・海外から留学の大学生等を活用した企画または英語を活用する企画を2個進める。	ア・進学特別ルームはさまざまな授業で利用され、専門コースチームを核にルーム内のタブレットの整備・導入が進んだ。(○) イ・カナダ姉妹校との交流で本校生が活躍した。 ・留学の大学生を1ヶ月間毎日、英語活動に協力してもらう企画は行えた。海外の学校と授業中にネット交流を行う企画は機器・回線不良の解決が長引き、実現できなかった。次年度、ネット交流に再度挑戦したい。(△)
	(2) 創立10周年記念式典に向けた準備・周知活動	ウ・平成29年度に創立10周年を迎えるにあたり、創立10周年記念事業PTを立ち上げて、各種準備を行う。	ウ・平成29年秋の実施に向けて、記念式典準備、記念誌作成、周知活動を行う。	ウ・平成29年11月10日の実施に向けて、記念行事の交渉も終え、記念事業や同窓会企画など各種準備も進んでいる。(○)
	(3) 情報発信、広報の推進 エ 広報の推進 オ Webページ等による情報発信の推進	エ・学校説明会・外部説明会・中学校訪問による広報の推進を図る。 オ・Webページ等による在校生、保護者、受験生等への情報発信の推進を図る。	エ・学校説明会における参加者数 20%増(H27; 432人) オ・Webページ更新回数 30%増(H27; 39回) ・携帯連絡網の学年別部分の登録者数前年度比 20%増(H27; 220人)	エ・参加者は中学生だけで比べると 18%増だったが、全体として 490人で 13%増。2・3回目は 28%増だったため、次年度は1回目も増えるよう努めたい。(○) オ・Webページのデザインを4月に一新し、更新回数は 348%増の 175回であった。(◎) ・学年連絡網の登録は 77%増の 389人。(◎)